

統合比率に関する今後の進め方（個人的見解）

宮川 努（学習院大学）

1. 統合比率の検証及び見直しにかかるプロセスに関する個人的見解は、以下の通りです。
 - (1) 統合比率に関わるデータを取得された西村委員長、西郷委員、また内閣府に代替的検証を要望されている北村委員の結果も含めて、年度末までに統合比率をめぐる議論を、統計委員会担当室の方で整理する。議論に付随する情報も随時お送りすることとし、本日の出た議論については、統計委員会担当室の方の解説を加えて委員の皆様にお送りする。
 - (2) 来年度初めに、年度末に整理した結果を、統計委員会懇談会で報告する。その際に検討すべき論点とそれへの対応策をまとめる期限を明示する。基本計画に沿って、再度統合比率を見直す場合は、ここでの論点と対応策をまとめる期限が一つの基準となる。
 - (3) なお、この問題を来年度から本格的に検証するにあたり、あらためてWGなど公式の会合を設置する場合、宮川は現在SUTタスクフォースの座長も務めていることもあり、一委員としては参加するものの、座長は他の委員に務めていただく。